

朱雀第四小学校の発掘調査

1996年1月12日

(財)京都市埋蔵文化財研究所

なぜ発掘をするのか？

2年前の1994年は、京都に都（首都）が移されてから、ちょうど1200年目にあたりました。それを記念していろいろなイベントが行われたことをおぼえている人も多いと思います。京都に都を移すとき（794年）、天皇や貴族たちは図1のような大きな長方形の都をつくらうとしました。そして、この都を平安京と名付けました。

平安京の大きさは南北5.2km、東西4.5kmもあり、その中を大小の道路によってくぎり碁盤目状の町をつくっていました。平安京で、一番大きな道路であった朱雀大路（幅約84m、今の千本通）から西が右京、東が左京とよばれていました。図1の*印のところが朱雀第四小学校の発掘調査地点です。この住所を当時は、平安京右京二条二坊五町といました。

今でも平安京跡は重要な遺跡として知られており、土地を大幅に掘られていなければ当時の人々の生活の跡が土の中に残っています。発掘調査をおこなうことによって、昔の人々の暮らしが明らかになるのです。

発掘調査をして何がわかったか？

第1番目は、1200年前の都づくりがたいへん正確であったことです。どのような基準で都づくりをしたかは、残っている古い記録によって少し知ることができます。発掘してみると、その記録どおりのところに二条大路と北側の家の塀、そして塀にともなう溝がみつけられました。当時は法律でそれらの幅や位置がきっちりときめられていたからです。精密な測量機械のなかった時代に宅地をくぎる道路を東西南北に正確におすための高度な知識があったにちがいありません。

第2番目は、1200年前にここに住んでいた人がかなりくらの高い人であったことです。発掘調査でわかった建物の大きさや建物配置によって、はじめは二条二坊五町全体を住宅地に使用していたと考えられます。その広さは学校の敷地をもう少しひろげた大きさで、120m四方の正方形の土地でした。当時はくらの高い人ほど、天皇がいた平安宮に近いところに住んでいました。また、二条大路は、平安宮の正面を東西にとおる平安京でも2番目に大きな道路（幅約51m）です。小学校の敷地は、二条大路の北側に位置し、しかも平安宮に非常に近いところでした。ここに住んだ貴族のくらの高さが、これらのことからうかがえます。調査地は住宅地の南東隅にあたっており、主人が暮らしていた一番りっぱで大きな建物跡は、きっとグラウンドの真ん中にあるにちがいありません。

第3番目は、10か所いじょうの地点^{ちてん}から1100年前のまじないの跡が見つかったことです。当時の人々は、すべてのものに神がやどると考えていました。地震^{じしん}や洪水^{こうずい}などの災害^{さいがい}もすべて神々が怒^{いか}った結果^{けっか}ひきおこされたと考えました。ここでは南北に流れる川^{ちゅうおう}が中央^{ちゅうおう}にいくすじも見られ、人々が水をどのようにコントロールして流すか悩^{なや}んでいたようすがわかります。これらの川にそっていろいろなまじないの跡がでてきたのです。これらのまじないの跡は、ここに住んでいた人々が今後もこの土地で豊かに暮らせるよう、土地の神や水の神にいのり、神の怒りをしずめた跡かもしれない。

第4番目は、当時の社会^{りつりょうせいど}（律令制度）がだんだんと変化^{へんか}していくようすがうかがえることです。律令制度とは、図2に書いてあるように土地と人はすべて国のものであり、土地の売買^{ばいばい}は禁じられ、人々は国からわけあたえられた土地に住んでいました。この図2は6年生になったら使う教科書^{きょうかしょ}にのっているものです。平安京のような大きくてりっぱな都は、このような制度があったからこそできたのです。

1100年前ごろからこの律令制度がだんだんとつぶれていく時代にあたります。この町も分割^{ぶんかつ}され、新たに家がつくられました。さらに、二条大路の北はしにある溝もだんだん埋められ、塀を南につくりかえて家の土地をひろげていき、道路から各家にはいる門^{もん}もつくられたようです。当時の二条大路は幅は51mもありましたが、だんだんとせまくなっていき今では6mしかありません。

第5番目は、この町^{ちやう}がだんだん平安京の宅地から畑や田んぼになっていくようすがわかってきたことです。都ができて300年ほどたった時には右京が耕作地^{こうさくち}に変わっていき、左京を中心に都が栄えていたことが昔の記録^{きこく}に書いてあります。このことも今回の発掘調査によって明らかになりました。幸運^{こううん}にも長いあいだ耕作地であったことが、遺跡を現在まで残していたといえます。

おわりに

いじょうのことが、今までの発掘調査でわかりました。朱雀第四小学校の地下に眠^{ねむ}る遺跡^{いせき}は、歴史^{れきし}の謎^{なぞ}をとくカギが**いっばいつまった宝^{たから}の山**なのです。また、この下にはもっと古い時代の川や沼^{ぬま}があることがわかってきました。これらをすべて調査すれば、もっと多くのことがわかると思います。

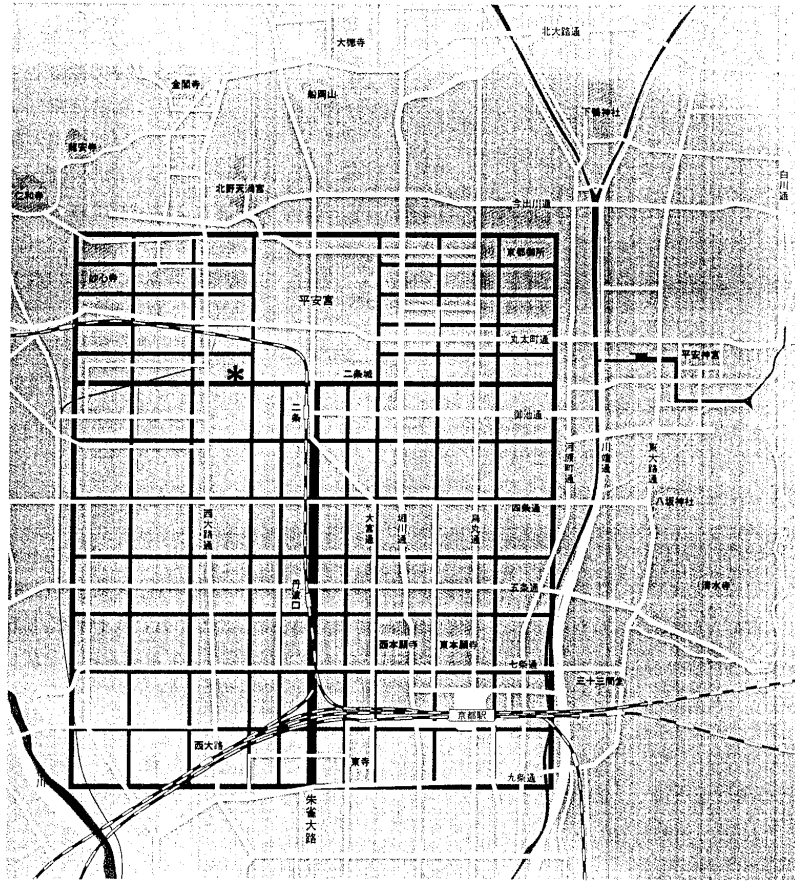
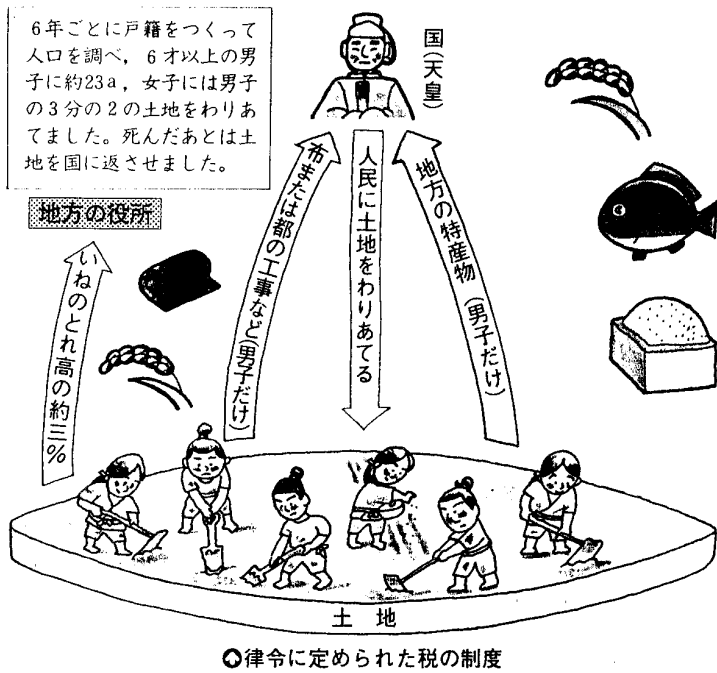


図1 昔の平安京と今の京都の町 (*印が朱雀第四小学校)

新しい政治の方針(646年)

- 一 これまで天皇や豪族がもっていた土地や人民は、すべて国家のものとする(公地公民)。
- 二 都や地方の区画を定め、それぞれの地方に役人をおいて治めさせる。
- 三 戸籍をつくり、人民に田をわりあてて耕作させる。
- 四 布などをおさめる税の制度を統一する。



●律令に定められた税の制度

図2 律令制度のしくみ (6年生の社会の教科書から)

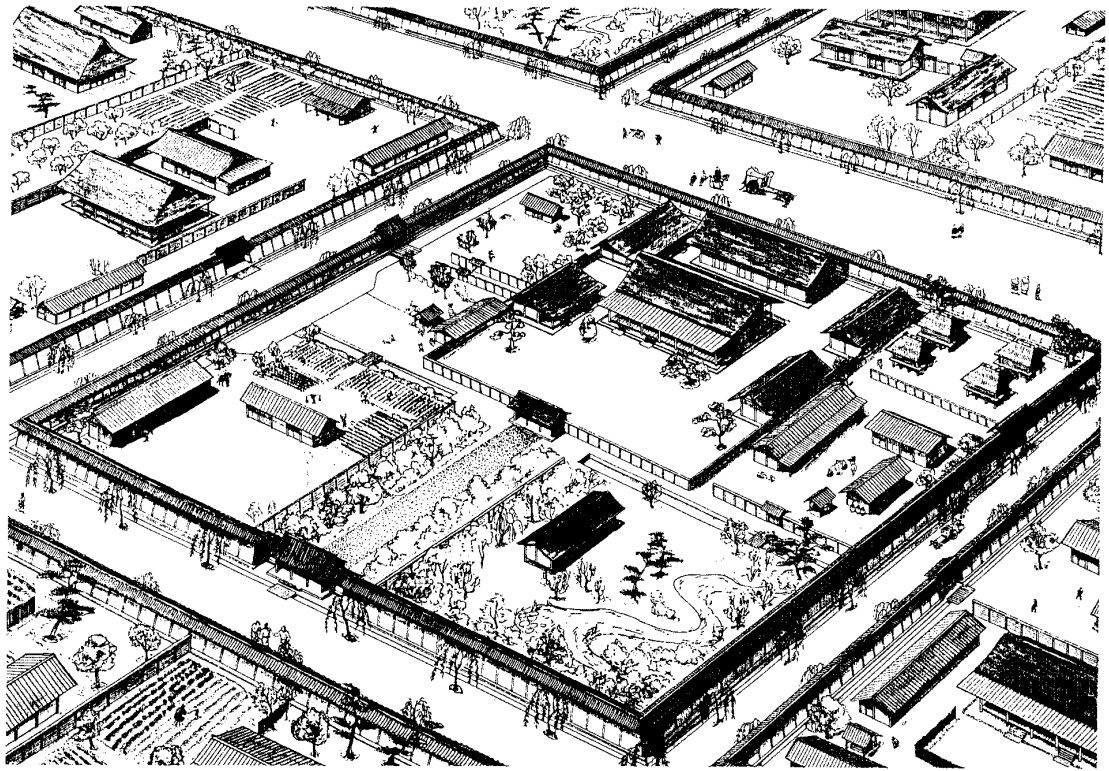


図3 平安京右京一条三坊九町の住宅地の想像図（今の山城高校のところ）

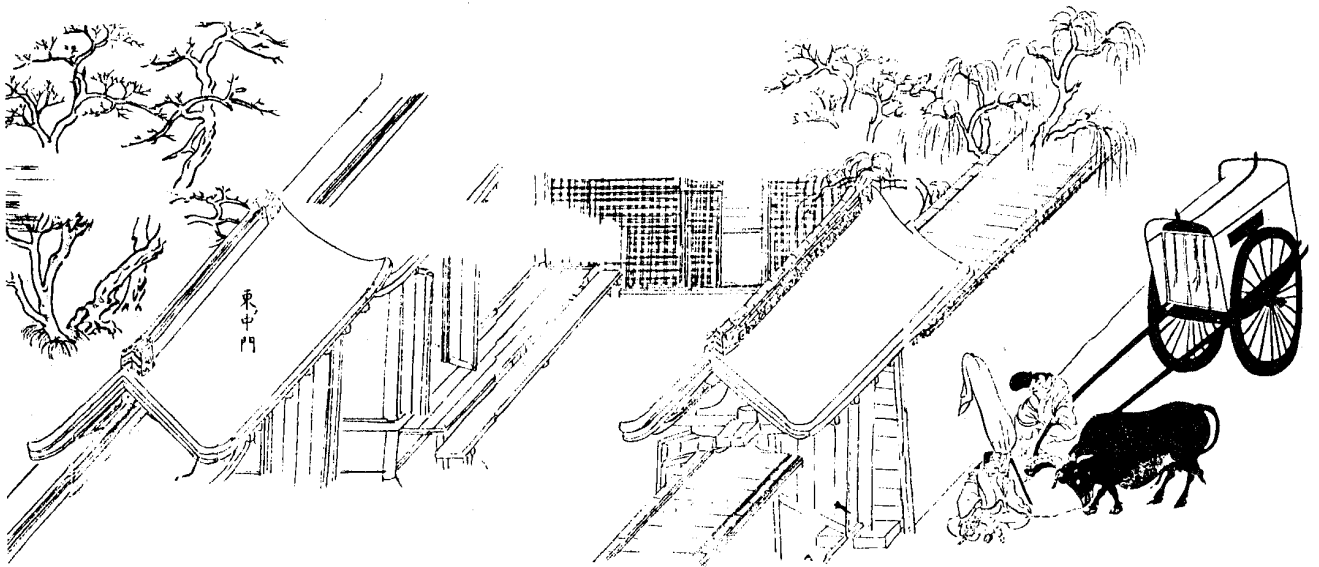


図4 平安時代の終りに描かれた絵巻物にみられる道路と塀と門

（貴族の家の東の築地と門が描かれています。左には建物の廊下につくられた中門がみられ、その奥に主人の建物と庭があります。道路ではこの家に招かれた人が乗ってきた牛車と従者が待っています。道路の溝はすでに埋められたのか描かれていません。）

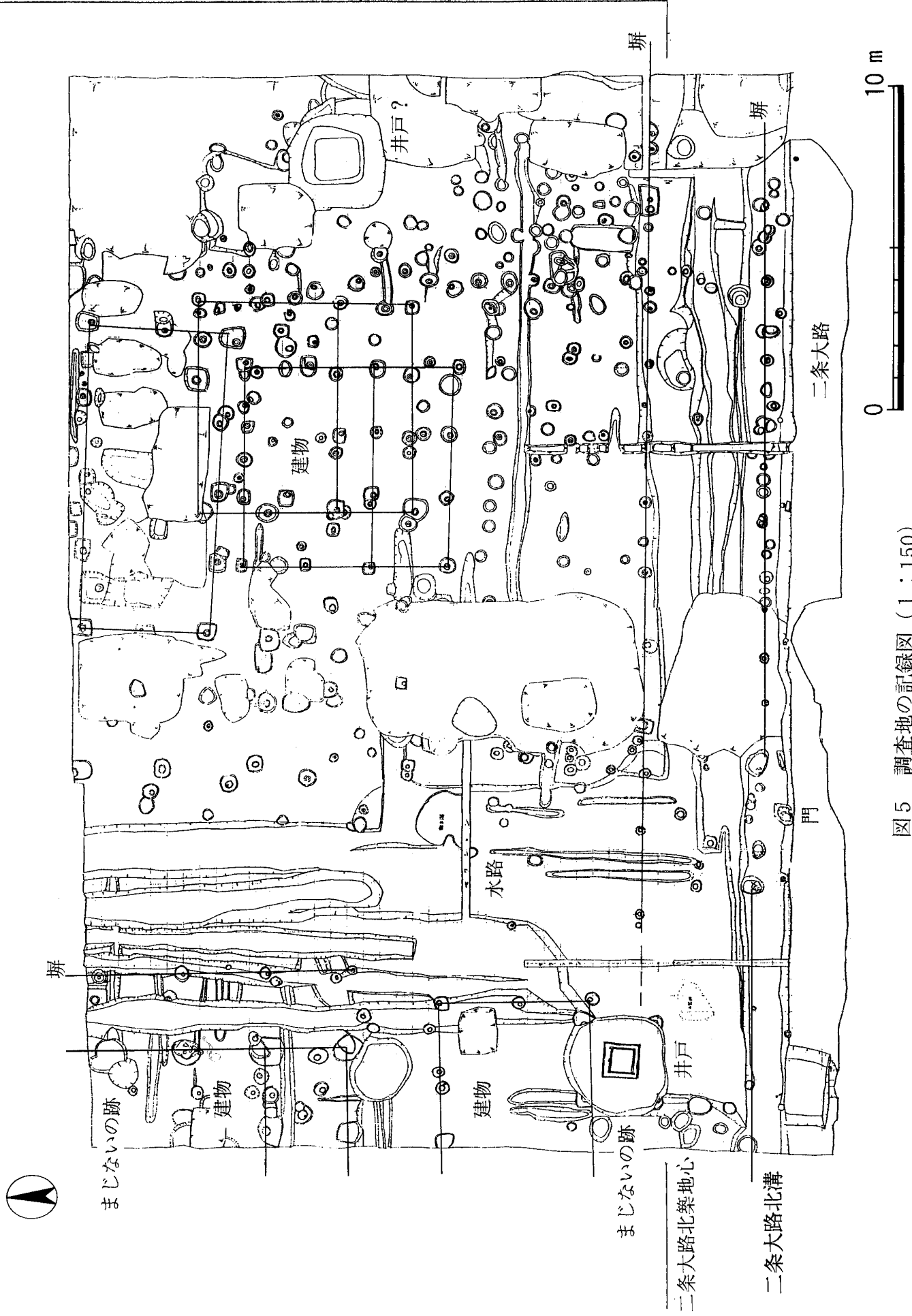


図5 調査地の記録図 (1 : 150)

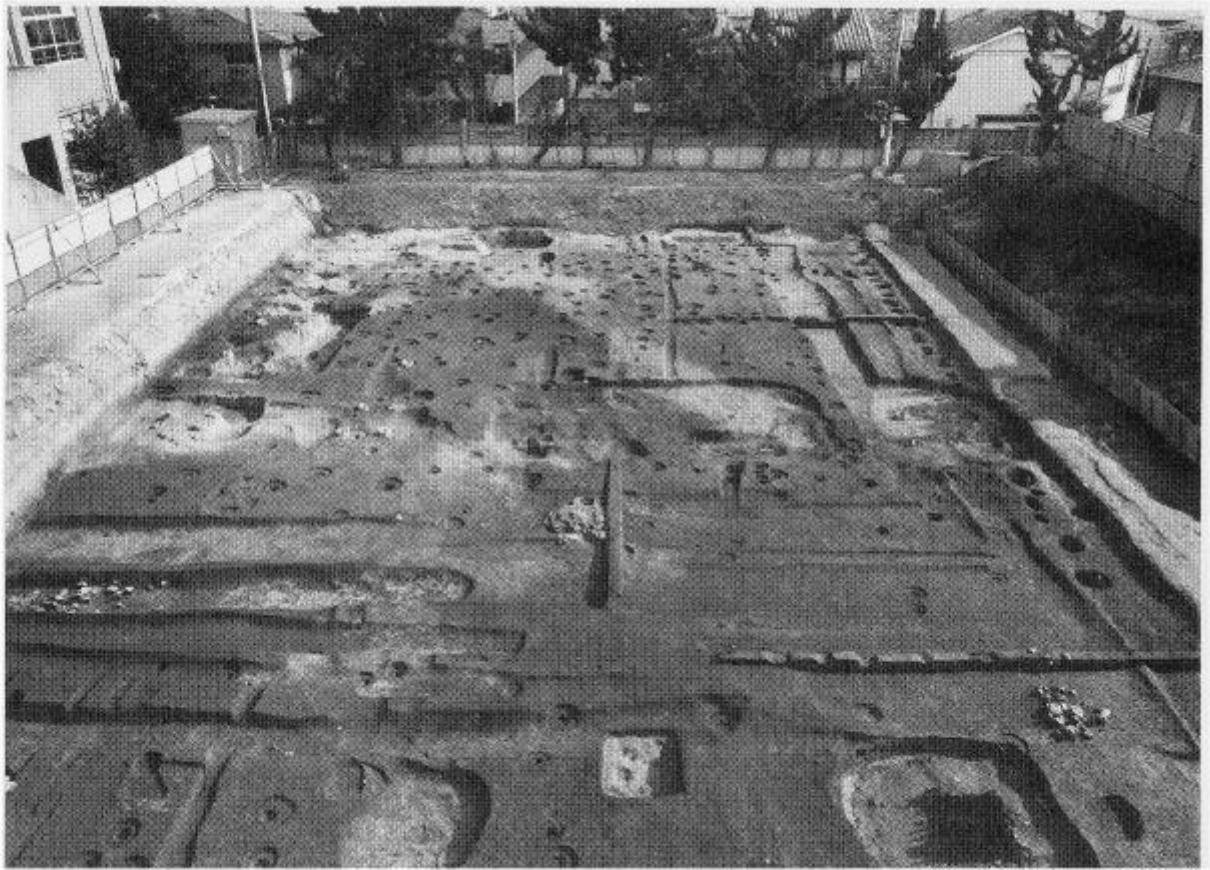


写真1 発掘調査地の風景（西から）

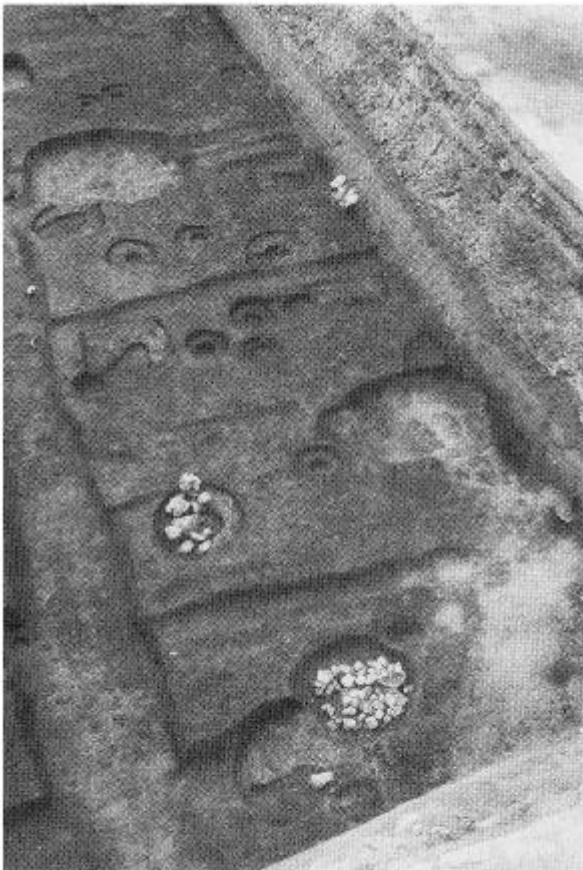


写真2 建物の柱穴とまじないの跡

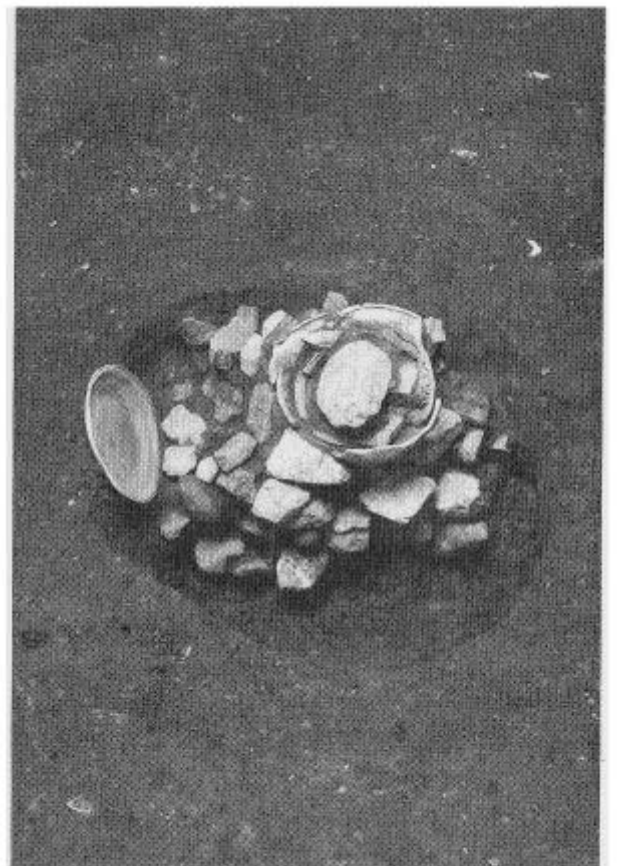


写真3 まじないの跡